

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Gent's トラクターギヤオイル 80W GL-4  
 製品コード : 29-G-01  
 推奨用途及び使用上の制限 : 農機用ギヤ油・作動油等兼用油  
 供給者の会社名称 : 株式会社CAPスタイル  
 供給者の住所 : 東京都大田区大森北1-11-5共和七番館6F  
 供給者の電話番号 : 050(3066)0388  
 供給者のファックス番号 : 03(3298)7104  
 緊急連絡先電話番号 : 050(3066)0388

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類  
 物理化学的危険性 : GHS分類基準に該当しない  
 健康に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない  
 環境に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない  
 GHSラベル要素  
 シンボル : なし  
 注意喚起語 : なし  
 危険有害性情報 : なし  
 注意書き  
 【安全対策】 : なし  
 【応急措置】 : なし  
 【保管】 : なし  
 【廃棄】 : なし

※GHS分類による上記注意書きの記載以外でも、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に対して十分な配慮を行ってください。

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない項目については、国連GHS勧告で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報

組成	Cas No.	化審法官報整理番号	含有量 (mass %)
石油系炭化水素 *1)	非開示	-	45-55
石油系炭化水素 *2)	非開示	-	35-45
潤滑油添加剤 *3)	(混合物)	-	≤7
粘度調整剤 *4)	(混合物)	-	≤3

危険有害成分 : 労働安全衛生法 (名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物)

成分	Cas No.	政令番号	含有量 (mass %)
鉱油 *1)	非開示	第57条 別表第9の168	45-55
鉱油 *2)	非開示	第57条 別表第9の168	35-45
鉱油 *3)	-	第57条 別表第9の168	1-5
鉱油 *4)	-	第57条 別表第9の168	1-3

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 1 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
 2 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。  
 皮膚に付着した場合 : 1 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。  
 2 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。  
 眼に入った場合 : 1 清浄な水で数分間注意深く洗う。  
 2 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。  
 3 その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。  
 飲み込んだ場合 : 1 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。  
 2 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。  
 使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがある。  
 特有の危険有害性 : 火災によっては、刺激性のガスが発生することがある。  
 特定の消化方法 : 1 火元への燃焼源を絶つ。  
 2 周囲の設備等に散水して冷却する。  
 3 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 消火を行う者の保護 : 1 消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。  
 2 必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際には、保護具を着用する。  
 環境に対する注意事項 : 1 土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。  
 2 海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。  
 封じ込め及び浄化の方法及び資材 : 1 危険領域から人を退避させる。  
 2 危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。  
 3 少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウエスその他適切な物に吸収させ回収する。  
 4 大量流出の場合、盛土で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。

## 安全データシート

## 二次災害の防止策

- 1 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- 2 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
- 3 漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

## 技術的対策

- 1 取り扱い時は適切な保護具を着用する。
- 2 皮膚との接触を避ける。
- 3 眼との接触を避ける。
- 4 屋内での取り扱い時は適切な換気下で行う。
- 5 蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。

## 注意事項

## 安全取り扱い注意事項

- : 指定数量以上を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
- 1 容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。
  - 2 容器から取り出す時はポンプなどを使用する。細管を用いて口で吸い上げない。飲み込まない。
  - 3 ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。
  - 4 容器を倒したり、落としたり、ショックを与えたり、引きずったりしない。

## 接触回避

- 1 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
- 2 火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。

## 衛生対策

- 1 取り扱い後は手と顔をよく洗う。
- 2 作業中は飲食、喫煙をしない。

## 保管

## 保管条件

- 1 直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。
- 2 発火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。
- 3 使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。

## 注意事項

- : 空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

## 8. 暴露防止及び保護措置

## 設備対策

- 1 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
- 2 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

## 管理濃度

## 許容濃度

- : 規定なし (作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日)
- 1 日本産業衛生学会 (2010年度版) : 時間荷重平均 3mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)
  - 2 ACGIH (2010年度版) : 時間荷重平均 5mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)

## 保護器材

## 呼吸器用保護具

: 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク (有機ガス用) を着用する。

## 手の保護具

: 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。

## 眼の保護具

: 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

## 皮膚及び身体の保護具

: 長期間にわたり、繰り返し取扱う場合には耐油性の長袖作業着を着用する。

## 衛生対策

- 1 汚れた衣服は脱ぎ、最使用する場合はよく洗う。
- 2 取り扱い後は手を十分に洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 物理状態

: 液体

## 色

: 褐色

## 臭い

: 石油臭

## 臭いの閾値

: データなし

## pH

: データなし

## 沸点又は初留点

: データなし

## 沸点範囲

: データなし

## 流動点

: -35.0 °C

JIS K 2269

## 引火点

: 236 °C

JIS K 2265-4 (COC)

## 自然発火点

: データなし

## 分解温度

: データなし

## 爆発範囲の上限

: データなし

## 爆発範囲の下限

: データなし

## 蒸気圧

: データなし

## 蒸気密度

: データなし

## 密度 (15°C)

: 0.88 g/cm<sup>3</sup>

JIS K 2249

## 動粘度 (40°C)

: 59 mm<sup>2</sup>/s

JIS K 2283

## 水に対する溶解度

: 不溶

## 10. 安定性及び反応性

## 反応性

: 通常の取り扱い条件下では反応しない。

## 化学的安定性

: 常温・常圧で安定である。

## 危険有害反応可能性

: 強酸化剤との接触を避ける。

## 避けるべき条件

- 1 混触危険物質との接触。
- 2 長時間の加熱、裸火、着火源。

## 混触危険物質

: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

## 危険有害な分解生成物

: 燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

## 11. 有害性情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

## 製品

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

## 急性毒性

: 分類できない。

## 皮膚腐食性/皮膚刺激性

: 分類できない。

## 安全データシート

眼に対する重篤な損傷性	: 分類できない。
又は刺激性	
呼吸器感作性	: 分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。
発がん性	: 分類できない。
生殖毒性	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 分類できない。
誤えん有害性	: 40℃の動粘性率が20.5mm <sup>2</sup> /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。
成分 (石油系炭化水素)	
急性毒性 (経口)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
急性毒性 (経皮)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
急性毒性 (吸入)	: ラット吸入(ミスト) LC50(4h) 5mg/L以上
眼に対する重篤な損傷性	: ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。
又は刺激性	
呼吸器感作性	: 分類されない。
皮膚感作性	: モルモットを用いた複数の試験(ビューラーテスト)において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。
生殖細胞変異原性	: AMES試験においてMutagenicity Index (MI) 値が0.0との報告がある。 広範囲な変異原性試験(in vivo及び in vitro)が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
発がん性	: IARCでは、高度精製油はグループ3(人に対する発がん性について分類できない)に分類され、ACGIHの提案もほぼ同様の分類と言える。EUによる評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。 各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。
生殖毒性	: ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。
誤えん有害性	: 40℃の動粘性率が20.5mm <sup>2</sup> /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。
成分 (潤滑油添加剤)	
即時健康障害	
眼	: 持続的または重大な眼刺激性を引き起こすとは考えられていない。
眼刺激性	: 眼刺激の危険性は、類似物質または類似製品構成物軸のデータ評価に基づいている。
皮膚	: 繰り返し皮膚に接触すると刺激性を及ぼす恐れがある。 皮膚に接触すると、アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れがある。 症状には、疼痛、掻痒、脱色、腫脹、および水疱形成が含まれることがある。 皮膚からの吸収により臓器に有害性があるとは考えられていない。 本物質が加熱された場合、皮膚に接触すると火傷する恐れがある。
皮膚急性毒性	: 急性皮膚毒性の危険性は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
皮膚感作	: 皮膚感作: 皮膚感作の危険性は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。 本物質は、指示された処方割合で調製されたオイル中に含まれている場合、アレルギー性皮膚反応を引き起こすとは考えられていない。その処方割合は以下の通りである: 7 重量%
飲み込み	: 飲み込んだ場合、有害であるとは考えられていない。
急性経口毒性	: 急性経口毒性の危険性は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
吸入	: 吸入した場合有害であるとは考えられていない。 石油を基本とする鉱油を含有している。鉱油ミストの推奨される曝露限界値を超える空気中の鉱油ミストの持続的または反復した吸入により、呼吸器の刺激やその他の肺障害がおこる恐れがある。 呼吸器の刺激症状には咳と呼吸困難が含まれる。 本物質は、100℃ (212°F) を超える温度に加熱されたり、80℃ (176°F) を超える温度で5日以上保管すると分解し硫化水素ガス (H <sub>2</sub> S) を発生する恐れがある。 硫化水素は強い腐蝕臭がする。しかし、高濃度で持続的に曝露されると硫化水素はヒトの臭覚を麻痺させる。腐蝕臭がしなくなったからと言って、必ずしも硫化水素への曝露が終わったということではない。低濃度でも硫化水素は眼、鼻、喉に刺激性がある。中程度の濃度では、頭痛、めまい、吐き気、嘔吐のほか咳や呼吸困難を引き起こす。さらに高濃度では、ショック、痙攣、昏睡、死亡を引き起こす。高度の曝露では、通常では症状は直ちに現れる。米国国立労働安全衛生研究所(NIOSH)は、硫化水素ガスの空気中の濃度 100ppm以上を即時生命危険濃度 (IDLH) としている。
急性吸入毒性	: 急性吸入毒性の危険性は類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
急性毒性予測	: 未決定
その他の毒性情報	: 本製品は、高度な溶剤抽出、水素化分解、または水素添加処理など多くの工程を経て精製された石油基油を含有している。OSHA危険性周知基準 (29 CFR1910.1200) では、油の発がん性の警告は必要とされていない。これらの油は米国国家毒性評価計画 (NTP) 年報にリストされたことはなく、国際がん研究機関 (IARC) でもヒトに対して発がん性がある (第1群)、おそらくヒトに対して恐らく発がん性がある (第2A群)、ヒトに対して発がん性があるかもしれない (第2B群) に分類されていない。 これらの油は、米国産業衛生市門家会議 (ACGIH) によって明白なヒト発がん物質 (A1)、ヒト発がん物質の疑い動物に対する完全な発がん物軸でヒトでの発がん性は不明 (A3) とは分類されていない。 本製品は、28日間の反復投与毒性試験と生殖発生毒性スクリーニング試験の複合試験 (OECD 422) により検査された成分を含有している。検査物質は10、30、100、305mg/kg/dayの容量でラットに強制経口投与した。305mg/kg/dayのグループにおいて、10匹のうち6匹の妊娠ラットで、胎児の完全な吸収が起こり、出産に失敗した。さらに、出産時の子供の平均数が低かったラットにおいて、胎児吸収の割合が増加した。これらの研究結果に基づき、100 mg/kg/dayが、OLOA 5286の生殖発生毒性に

## 安全データシート

おける最大無毒性量(NOEL)であると考えられた。本調査における、親への毒性は100 mg/kg/day以上の投与量で発現した。観察された主な作用は、死亡、可逆的な臨床所見、主として初週の平均体重や平均摂餌量が少ない、臨床病理学上の可逆的な影響、組織病理学的な相関性を伴わない肝重量の増加(雄ラットのみ)、に関連した可逆的な組織病理学的所見、腸間膜リンパ節におけるストレス関連の、影響、有害ではない臓器への影響などがあつこれらの研究結果に基づき、親への全身毒性のNOELは、30 mg/kg/dayであると考えられた。

成分(粘度調整剤)	
急性毒性(経口)	: LD50 経口ラット>5000 mg/kg 摂取により、胃腸の炎症および下痢を起こすことがある。
急性毒性(経皮)	: LD50 皮膚ウサギ>2000 mg/kg 混合物に繰り返してまたは長期にわたり接触すると皮脂の脱脂を引き起こし、その結果として非アレルギー性接触皮膚炎と経皮的な吸収を招くおそれがある。
急性毒性(吸入)	: 加熱によって生じる蒸気、気化物質を吸い込むと呼吸器に刺激を与える可能性がある。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	: 眼に対する刺激性なし。
その他の情報	: データなし。

## 12. 環境影響情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

製品	混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。
生態毒性	: 分類できない。
残留性・分解性	: 分類できない。
生体蓄積性	: 分類できない。
土壤中の移動性	: 分類できない。
オゾン層への有害性	: 分類できない。
他の有害影響	: 分類できない。
成分(石油系炭化水素)	
生態毒性	
急性毒性	: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類(ファットヘッドミノール 96時間) LL50 100mg/L以上 甲殻類(オオミジンコ 48時間) EL50/NOEL 10,000mg/L以上 藻類(セレナストルム) NOEL 100mg/L以上 難水溶性のため上記試験においては調整されたWAF(水適応性画分)を試料として使用している。 上記試験結果から水生環境急性有害性なしと判断する。
慢性毒性	: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類(ファットヘッドミノール 14日間) NOEL 100mg/L以上 甲殻類(オオミジンコ 21日間) NOEL 10mg/L以上 微生物の発光試験(4日間)による発光の抑制は確認されなかった。 難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF(水適応性画分)を試料として使用している。 (水適応性画分)を試料として使用している。 上記試験結果から水生環境慢性有害性なしと判断する。
残留性・分解性	: 生分解試験結果は31%(28日間)であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。
生体蓄積性	: 有用な情報なし。
土壤中の移動性	: 類似基油のlog KOCは3以上と推測され、地表で漏出した油は土壤に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。
オゾン層への有害性	: 有用な情報なし。
他の有害影響	: 微生物の発光試験(4日間)による発光の抑制は確認されなかった。
成分(潤滑油添加剤)	
生態毒性	: 本品は水生生物に有害であり水生環境に長期の影響を及ぼすことがあると考えられている。 製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から引き出されている。
残留性/分解性	: 本物質は、容易に微生物によって分解されるとは考えられていない。 本物質の生分解性は、構成成分または類似物質のデータ評価に基づいている。 製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。
生体蓄積の可能性	: 生物濃縮因子: 利用可能なデータなし。 オクタノール/水 分配係数: 利用可能なデータなし
成分(粘度調整剤)	
環境有害性	: E Cの基準では環境に対する危険物に分類されない。(計算に基づく)
環境に与える影響	: 環境中に残留する可能性のある成分を含有する。

## 13. 廃棄上の注意

残油廃棄物	1 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。 2 投棄禁止。 3 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	: 国連の分類基準に該当しない。
国内規制	
下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規則に従った容器、積載方法により輸送する。	
陸上輸送	消 防 法 : 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)

## 安全データシート

- 容器 : 危険物の規制に関する規則別表第3の2に定めた適合品を使用する。  
(注) 容器は、危険物の規則に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。
- 容器表示 : 一 危険物の品名 第4石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油  
二 数量  
三 火気厳禁  
表示対象物 (労働安全衛生法)

## 海上輸送

船舶安全法 : 非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて)

## 航空輸送

航空法 : 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件 : 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

**15. 適用法令**

## 国内法規と規則

- 消防法 : 危険物 第4類 引火性液体 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)  
労働安全衛生法 : 表示対象物、通知対象物  
化管法 (PRTR法) : 非該当  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
水質汚濁防止法 : 油分排出規制  
下水道法 : 鉱油類排出規制  
海洋汚染防止法 : 油分排出規制  
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物規制

**16. その他の情報**

## (引用文献)

- 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 改訂6版 (2015年)  
GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z 7252-2019)  
GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (JIS Z 7253-2019)  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS関連情報  
安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」  
2018 許容濃度の勧告 (日本産業衛生学会)  
その他文献調査によって得られた情報

安全データシートは、提供した製品の安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取り扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用してください。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。